



# 日本SPF豚協会だより

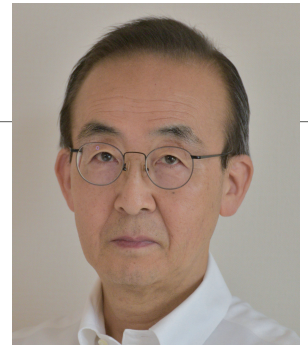
2025.1  
No.98

## 提言

### 「筆の赴くままに」

公益社団法人日本動物用医薬品協会 理事長

### 池田一樹



明けましておめでとうございます。ご縁あって寄稿させていただくこととなりました。幸いお題はお好きにと伺いましたので、筆の赴くままに。

宮崎県の口蹄疫も10年以上昔になりました。燎原の火ごとく広まる感染が、ワクチンで瞬く間に鎮まる様を目の当たりにし、その観面<sup>てきめん</sup>の効果に改めながら深く感銘を受けたことは忘れられません。

時は流れ、世界中の社会、経済に未曾有の爪痕を残した新型コロナウイルスのパンデミックも、ウイズコロナとして落ち着きました。誤解を恐れず申し上げればワクチンあつての賜物です。

ワクチンや抗ウイルス剤は、対感染症戦での最強の武器ですが、AMRが世界的な重要課題となった今日、ワンヘルスアプローチでの役割が大きくクローズアップされています。

昨年5月の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」の改訂に続き、9月末「AMRに関する国連ハイレベルミーティング」で政治宣言が採択されました。2016年に次ぐ第二弾で、家畜衛生分野ではアグリフードシステム全体の抗菌剤使用を大幅に削減すること、その手段として慎重使用に加えて、2030年までに各国がワクチン戦略とそのアクションプランを策定することが国連の場で約束されました。実のある戦略の策定や着実な実行にあたっては、産学官はもとより、消費者の方々も参加した真に実のある連携が試されます。WOAH（IHOIE）ではワクチンで抗菌剤の使用を大幅に抑制できる感染症をリスト化していて、貴協会の認定対象であるPRRSやマイコプラズマ症も含まれています。抗菌剤を極力抑制することをモットーとされてきた貴協会の、波岡茂郎先生から始まる55年の積み重ねが必ず役に立つものと確信します。

さて、AMR対策では畜産物を介した消費者の方々への間接的な健康リスクがまず取り上げられますが、より大きなリスクは

飼養者の皆様への直接伝播にあります。デンマークでは、LA（家畜関連型）-MRSA感染肥育豚農場が2010年の16%から6年間で88%に急増しました。感染者も増加し、大半は養豚使用者の方々です。日本ではかつては輸入豚での確認でしたが、今では国内農場に浸潤し、増加傾向です。複数のと畜場の調査で2018年には8%だったMRSA陽性養豚場が2022年には30%となり、大半はLA型との報告もあります。この現状について欧米より感染率が低いとの評価もあります。しかしながら、目下の増加傾向はもとより、流通経路や亜鉛等の飼料成分が異なるとはいえデンマークの急増例があること、更には主流のST398株が耐性率の高いテトラサイクリンを含む多剤耐性を示していることなどから油断はできません。

横道にそれましたが、畜産向けワクチンのマーケットシェアを販売額で見ると輸入が約半分、豚用では約7割です。国内メーカーも減少してきました。蛇足ですが抗菌剤は人用動物用を問わず出発物質から原薬まで世界中がインドと中国に依存していますから、SDG's達成に向けて供給確保がワクチンと並んで重要課題です。人の分野では、コロナ以降国のワクチンや抗菌剤の開発・製造対策は目覚ましい進展を見せていますが、目下農林水産省でも「ワクチン戦略検討会」が開催されています。国家戦略物資としての国の対応を前提として、ワンヘルスアプローチの観点も盛り込んだ戦略の策定が期待されます。

国内動物用医薬品メーカーの規模は、残念ながら海外大手とは比べものになりません。R/D（研究開発）のリソースも大きく水をあけられる中、優れた農林水産研究開発課題に授与される農林水産大臣賞をこの4年間で2回、当協会の会員社がワクチン等で受賞するなど技術力で頑張っています。今後とも開発、供給に努めて参りますので、ユーザーの皆様にも応援いただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひします。

# SPF豚セミナーを1月22日に ハイブリッド開催

## 農場表彰式も会場で、懇親会も

前号でお知らせした令和6年度のSPF豚セミナーは、1月22日（水）、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。開催要項は下記の通りです。

今回も、会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式といたしました。会場は70名、オンライン参加90名限定です。昨年5年ぶりに復活した懇親会を今年も実施します。

会員の皆さんはもちろんどなたでもご参加いただけますが、参加費は会員と会員外で金額が異なりますのでご注意ください。

ください。

昨年に引き続き、生産成績優秀農場表彰式を会場で執り行います。昨年11月28日、協会事務所において選考委員会を開催、審査の結果、今年度の総合生産成績部門は有限会社高橋畜産（北海道、ホクレンピラミッド）に、商品化頭数部門最優秀農場は農事組合法人ジョイフルファーム八幡平（岩手県、全農畜産サービスピラミッド）に決定いたしました。高橋畜産は3年連続3回目、ジョイフルファーム八幡平

### 令和6年度SPF豚セミナー開催要項

開催日時：2025年1月22日（水）13：00～17：00

場 所：KKR HOTEL TOKYO（東京都千代田区大手町1-4-1） 11階「白鳥の間」

<https://www.kkr-hotel-tokyo.gr.jp/>

#### <プログラム>

開会のあいさつ	13：00～13：05
1) CM認定農場生産成績年次報告（2023年度）	13：05～13：35
日本SPF豚協会	
2) 生産成績優秀CM農場表彰	13：35～14：00
選考結果報告・講評	
濱岡隆文・表彰農場選考委員長	
表彰	
総合生産成績部門最優秀農場（有）高橋畜産（ホクレンピラミッド）	
商品化頭数部門最優秀農場（農）ジョイフルファーム八幡平（全農畜産サービスピラミッド）	
3) 事例発表「高成績を維持するための農場管理のポイント」	14：00～15：00
（有）高橋畜産	
（農）ジョイフルファーム八幡平	
休 憩	15：00～15：15
4) 講演「薬剤耐性（AMR）対策について」（仮題）	15：15～15：55
講師：出口 亨・農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課係長	

は初の受賞となりました。当日、選考委員長である濱岡隆文認定委員長に講評いただいたのち、鷺谷会長より賞状とトロフィーが授与されます。受賞後、両農場には高成績を維持するための農場管理のポイントについてお話させていただきます。成績アップの参考となる事例発表になることと思います。

セミナーの講演としては、2題お願いしております。

まずは、畜産の必要性や将来について、廣岡 博之・京都大学農学研究科名誉教授にご講演いただきます。廣岡先生は、昨年3月まで京都大学農学部農学研究科で教鞭をとられた畜産学の泰斗で、応用生物科学、畜産資源学分野、昆虫生態学分野にも造詣が深く、また統計学や経済学にも研究の視野を広げておられます。今後の畜産のあり方について、重要で示唆に富むお話を伺えるものと思います。

2題目は、国を挙げて取り組んでいる「薬剤耐性（AMR）

対策」について農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課の出口 亨係長のご講演です。薬剤耐性対策の具体的な施策について、わかりやすくご解説いただきます。

このほか、セミナー恒例の「認定CM農場生産成績年次報告」も行います。

セミナー終了後には、昨年復活し、好評だった懇親会も実施いたします。貴重な交流、情報交換の場となると思います。SPFポークのしゃぶしゃぶや加工品も用意する予定ですのでぜひご参加ください。なお、会員以外の方は懇親会込みの参加費となっております。

急なご案内となり恐れ入りますが、人数も限定しておりますので、開催要項を参照の上お早めにお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

5) 講演「畜産の必要性や将来について」(仮題) ..... 15:55～16:55

講師：廣岡博之・京都大学名誉教授

閉会のあいさつ ..... 16:55～17:00

懇親会 ..... 17:00～19:00

<参加費> 協会会員：セミナー無料、懇親会費5,000円 会員以外：10,000円（懇親会費含む）

### <お申し込みについて>

右のQRコードまたはURLから申し込みサイトにアクセスしてください。

折返し事務局よりご連絡差し上げます。自動返信ではありませんのでご了承ください。

<https://docs.google.com/forms/d/1bemdAvVwasxefudObeR3rtJYn-LjazQ8HLk0e3AP-So/edit>



FAXでも  
お申込みいただけます。  
FAX.  
**03-5835-5376**

- ①所属・お名前
  - ②メールアドレスまたは連絡先
  - ③実参加・オンライン参加のいずれか
  - ④懇親会参加・不参加のいずれか
- を明記の上、左記までFAXをお送り下さい。  
折返し事務局よりご連絡差し上げます。

アドレス等お間違えのないようご注意の上お申し込みください。

会場参加70名、オンライン参加90名になり次第締め切らせていただきます。

### <問い合わせ先>

協会事務局

**j.spf.a@nifty.com TEL.03-5835-5375 , 070-4108-3825**

第20回

農場バイオセキュリティ  
強化のための  
最新情報



# 養豚場の 抗菌剤によらない サルモネラ対策例

アニマル・バイオセキュリティ・  
コンサルティング(株)

三宅眞佐男

サルモネラ属菌は2,500種類以上の血清型に細分され、自然界に広く分布し、家畜の腸管内に保菌されるものもあります。中でもDublin(ダブリン)、Enteritidis(エンテリティディス)、Typhimurium(ティフィムリウム)、Choleraesuis(コレラエスイス)感染による家畜の疾病は届出伝染病に指定され、豚の届出は毎年あり令和5年迄の10年間の年平均で327頭でした。本菌による敗血症死、発育不良がある農場では経済的被害が大きく根絶が困難です。感染豚から菌は糞中に排出され、ネズミや衛生害虫等により拡散され、環境に残存し再循環しています。

洗浄、消毒の重要性は山本孝史先生が本誌42号(2011年1月)に記されていますが、多くの農場では不十分と考えられます。本稿では秋から冬期に1,000頭規模のピットがない一貫生産農場で抗菌剤の投与なしに消毒のみにより実

施したサルモネラ清浄化の結果を紹介します。使用した薬剤は寒冷下や有機物存在下でも高い除菌効果が確認された過酢酸製剤で、その濃度は豚のいる豚房では豚を避けて過酢酸濃度250ppmで、通路その他の場所は500ppmで動力噴霧しました。噴霧量は1L/m<sup>2</sup>、頻度は毎月1回床面、壁面や可能な限りスクレーパー溝など豚舎内全体を噴霧し、更に、豚のアウト後の水洗後にも噴霧しました。ふん尿溜まりには液を注入しながら流し、床面のクラックやゴキブリの巣穴にも噴霧しました(写真1,2)。採材は図に示した月に種豚舎、分娩舎、離乳舎、肉豚舎について、豚のいる豚房も含めてランダムに各豚舎5枚のドラッグスワブで採材しました(図に示した数字部分はその枚数を採材)。

結果は図のとおりで肉豚舎以外は消毒翌月から検出が激減しましたが、肉豚舎は豚が前のステージで感染して菌を保持していると考えられるため、消毒開始後4ヵ月経過後も20%検出されました。種豚舎と肉豚舎では消毒終了3ヵ月後に20%検出されましたが、消毒を更に継続すると低いレベルを保つことができるでしょう。

過酢酸製剤による消毒ではその酢酸臭が鼠属への忌避効果も考えられます。継続した徹底消毒が欠かせません。



写真1



写真2

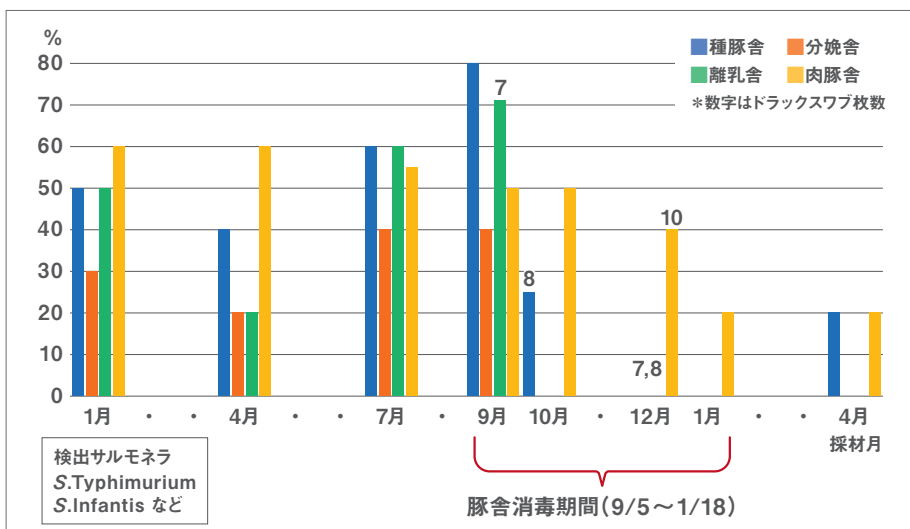


図 豚舎別ドラッグスワブのサルモネラ陽性割合

TOPICS

# デジタルコンテンツ配信システム 「MOPS (モップス)」の ご紹介

ネットレコーダー  
ソリューション(株)  
飯島賢士

この度、日本SPF豚協会に当社のMOPSを採用いただき、SPF豚農場認定業務のDX化を進めました。今回はMOPSが持つさまざまな機能をご紹介します。

MOPSはeラーニング・動画マニュアル・販促動画など多用途に利用できる汎用性の高いデジタルコンテンツ配信システムです。動画・電子ブック・テスト・アンケートを自由に組み合わせたコンテンツをどなたでも簡単に作成・配信可能です。どの形式もPC、タブレット、スマートフォンで視聴可能です。また当社のサーバー/クラウドを活用することで、高いセキュリティによる情報の蓄積とペーパーレス化を実現します。利用にはログインIDが必要となりますので、自社の映像など秘匿性の高い情報を、特定の方にだけ安全に配信することが可能です。誰が、いつ、どのコンテンツを何秒視聴したかもリアルタイムに確認いただけます。社内での事例紹介、ノウハウの共有、Eラーニングとして活用するなど、様々なシーンでご利用いただけます。

### 【利用目的に合わせた様々な配信方法】

- ① **セミナー形式**  
動画、または動画とスライドを組み合わせた形式。社内  
で共有したい映像やセミナー等の配信に最適。
- ② **電子Book形式**  
マニュアルや教育資料等を電子Bookとして配信。任意  
のページに動画を挿入することも可能。
- ③ **テスト・アンケート**  
理解度の測定や意見要望の収集に活用。
- ④ **パノラマコンテンツ**  
施設を360度カメラで撮影することで、上下左右、自由に  
視点を切り替えられる映像を公開することが可能。



### 【その他特徴】

- ① **ABRストリーミング**  
オフィス内・在宅・移動中・客先など、視聴環境の変化に  
ともなう回線速度低下時でも安定的に視聴できるABR  
ストリーミングが標準です。ストリーミングはローカルにコ  
ンテンツが残らず、情報流出の危険度を下げられます。
- ② **レジューム機能・倍速再生**  
PCで視聴していた続きをスマホで視聴、マルチデバイ  
ス対応したレジューム機能や倍速再生を搭載しています。  
隙間時間の有効活用が可能となり、マイクロラーニング  
に最適なシステムと高評価を賜っています。
- ③ **チャプター編集・再生**  
マイクロラーニングはこれからのトレンドであり、企業・学  
校ではセミナー・研修・授業など、たくさんの長尺ものが  
利用されています。これらにチャプター設定、見たいシー  
ンへの移動と再生がすばやくできます。長短、どちらの  
コンテンツ利用でも効果を出せる機能を搭載しています。
- ④ **リンク書き出し**  
選択したコンテンツのリンク情報を書き出し、自社Web  
ページへの埋め込みやメールでの送付が可能になります。  
コンボ機能でひとつにまとめたコンテンツでも利用  
できます。



### <問い合わせ先>

ネットレコーダー・ソリューションズ株式会社  
〒350-1122  
埼玉県川越市協田町16-6 岡村ビル4F  
TEL：049-227-4001  
Mail：information@netrecorder.co.jp

# 協会からのお知らせ

## ●全農養豚セミナーで認定農場 2 農場が事例発表しました

昨年 11 月 21 日、東京都千代田区大手町の大手町ファーストスクエアカンファレンスにおいて第 18 回全農養豚セミナーが開催（オンラインとの併催）されました。この中で行われた 2 例の事例発表が、いずれも協会認定農場である(有)鈴木ビビッドファーム（北海道、ホクレンピラミッド）と(有)クリーンポーク豊丘（長野県、全農畜産サービスピラミッド）でした。両農場とも全農グループの養豚生産管理システム「PICS」を活用して好成績を収められたことから講演の運びとなりました。鈴木ビビッドファームからは鈴木康裕・代表取締役社長と奥様のちはるさん、クリーンポーク豊丘からは松下翔太郎・専務取締役と藤井裕介農場長が参加されました。両農場とも認定農場らしいハイレベルの飼養管理技術が随所にうかがえる発表内容でした。



会場の質問に答える(有)鈴木ビビッドファームの鈴木康裕社長（右）、隣は事例発表を担当したホクレン旭川支所の伊藤さん

事例発表を行う(有)クリーンポーク豊丘の松下翔太郎専務

## ●薬剤耐性 (AMR) 対策に取り組みましょう

薬剤耐性菌による感染症の世界的な増加が懸念される中、わが国でも国を挙げて薬剤耐性対策を推進しています。毎年 11 月を「薬剤耐性対策推進月間」に設定し、薬剤耐性に関する知識や理解を深めるための国民的な運動を展開してきました。

農林水産省では、薬剤耐性対策推進月間に合わせ、同省北別館「消費者の部屋」において昨年 11 月 11 日から 22 日まで獣医の仕事と動物医薬品について紹介する展示を行ったほか、ポスター作成、Facebook や X などの公式 SNS 等を活用し情報発信しました。また、内閣官房でもポスターを作成し啓発活動を行いました。

抗菌剤の適切な使用方法と使用量の低減を心がけましょう！



## 認定情報

### ●2024年12月認定農場

(有効期間：2024年12月12日から25年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上土幌種豚育種研究室、(有)道南アグロ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産繁殖農場、同子豚農場、同肥育農場、同第3農場、岩手県・(株)ケイアイファーム玉山農場、(株)さいとうふぁーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラ S P F ファーム、北日本 J A 畜産(株)本社農場、秋田県・(有)ポークランド、山形県・(有)最上川ファーム、茨城県・(有)常陸牧場、ピッグファームゴカン、千葉県・(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、高森

※次回認定委員会は2025年3月6日(木)の予定

養豚、小長谷養豚、(有)菅井物産 S P F 農場、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、岡山県・岡山 J A 畜産(株)吉備農場、同田淵農場、愛媛県・太平洋ブリーディング(株)大川農場、同丹原農場、(有)協栄ファーム久万 C & P ファクトリー、同丹原 C & P ファクトリー、大分県・J A 北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、長崎県・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、同瑞穂農場、宮崎県・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、鹿児島県・ジャパンミート(株)湧水農場（以上45農場）



賛助会員編

JA全農くみあい飼料  
株式会社  
(東京都千代田区)

JA全農くみあい飼料本社の皆さん。  
前列右側が遠藤充史社長



## 単なるえさ売りではなく、生産者の総合的な窓口の役割担う 名実ともに日本一の飼料会社に

今号の「SPFのひと」は賛助会員編として、昨年4月に新たなスタートを切った、JA全農グループの飼料会社「JA全農くみあい飼料株式会社」のご紹介です。

同社は2024年4月、JA全農北日本くみあい飼料(株)、JA東日本くみあい飼料(株)、JA西日本くみあい飼料(株)、JA北九州くみあい飼料(株)の4社が合併し、事業本部制を敷く一つの会社になりました。北海道と南九州を除く43都府県をエリアとする、日本のトップクラスの飼料会社です。

農場事業にも注力し、直営を含む養豚農場には利根スウィンセンター(群馬県)、(株)畜産経営研究所前橋農場(群馬県)、愛媛養豚実証農場伊予スウィンガーデン(愛媛県)の協会認定農場があります(いずれも全農畜産サービスピラミッド)。

生産者との接点としてスピーディーな対応をめざすため、地域の特性や決定権を残しつつ、合併のメリットとしての管理体制の集約や合理化も推進しています。

代表取締役社長の遠藤充史<sup>あつし</sup>さんに東京大手町のJAビル内にある本社にてお話を伺いました。

遠藤社長は成果として、客先である生産者に迷惑をかけずにスムーズに合併が進んだことをあげられました。「何とかスタートが切れたかなとは思っています。その一方で『合併で何がよくなったのか』、『具体的なメリットは?』などの問いかけも多くなりました。

その声に応えるため、私は事あるごとに『我々は単なるえさ売りではない』と言ってきました。これまでもJAグループの一員として、それぞれの地域で、生産者のニーズに応じた飼料の製

造・供給販売を通じ安全・安心で高品質な畜産物生産を支援してきました。今回の合併によって事業運営の効率化や製造技術・営業ノウハウの高度化、畜産酪農事業に関わる専門人材の採用・育成などに取り組むことで、生産者対応力をさらに強化し、業界ナンバーワンの系統飼料会社として、JA・経済連・都府県本部・グループ関連会社とのネットワークを生かして、飼料の営業だけではなく、生産から販売までのあらゆる事業の窓口となるのが、生産者の事業支援につながると考えています。

「そして、業界ナンバーワンの飼料会社として、最終形を具体的に描きながら、中長期的な視点で関係各所の共有、納得の上で協議をすすめられるよう、7つの分科会・プロジェクトを発足、議論を進めているところです。名実ともに日本一の飼料会社をめざします」と力強く抱負を述べられました。

遠藤社長は全農出身、入会の際には協会認定GP農場である現全農畜産サービス(株)西日本原種豚場に配属されたそうです。SPF豚との縁も浅からぬものを感じますが、「SPF豚に対する消費者の認知度がなかなかあがらないのは歯がゆく、さびしいですね」と長年の協会の課題にも言及いただきました。

従業員1,260人を超えるJAグループでもトップ規模の会社として、今後も畜産生産者の支えとなり、日本一を目指して事業推進されることを確信しております。

(編集部)

## プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



# SPFポークの ロールキャベツ

●レシピ提供・きたぎん祖師ヶ谷大蔵店(東京都世田谷区)

**松矢 雄樹**

今回は、ひき肉料理の定番ともいえるロールキャベツです。冬本番の寒いこの時期、温まるには最適です。じっくり煮込んで豚肉のうまみをたっぷり味わいたいですね。時間をおくとさらにおいしさアップとのこと。にんにくとアンチョビが入ったトマトソースも味に深みがありそうです。ぜひお試しください。

### ●材料 ●(2人前)

- |         |                  |
|---------|------------------|
| ロールキャベツ | キャベツ(大きめの葉) 6枚   |
|         | 豚ひき肉 300g        |
|         | 玉ねぎ 1個           |
|         | A(下味用)           |
|         | パン粉 30g          |
|         | 牛乳 大さじ2          |
|         | ナツメグ 4~5ふり       |
|         | 塩 ひとつまみ          |
|         | ブラックペッパー 4~5ふり   |
|         | 水 400ml          |
| トマトソース  | ホールトマト缶 1缶(400g) |
|         | にんにく 2かけ         |
|         | アンチョビ 2枚         |
|         | オリーブオイル 大さじ4     |
|         | コンソメ顆粒 小さじ1と1/2  |
|         | ブラックペッパー 少々      |
|         | ローリエ 2枚          |
|         | 塩 適宜             |

### ●つくり方 ●

- ① 鍋にお湯を沸かしてキャベツを入れ、しんなりするまで1分ほどゆで、水気を切り、粗熱を取ります。
- ② 玉ねぎはみじん切りにします。耐熱ボウルに入れてラップをかけ、600Wの電子レンジで2分加熱し、粗熱を取ります。
- ③ ボウルに豚ひき肉、②、下味Aの材料を入れてよくこね、6等分にして俵型に形を整えます。
- ④ ①の手前に③のをせ、下からひと巻きし、右側の葉を折りたたみ、奥までしっかりと巻きます。左側の余った葉は肉だねの間に指先でギュッと押し込みます。
- ⑤ 深型のフライパンにオリーブオイルとにんにくを入れ、弱火でじっくりと加熱します。
- ⑥ 香りが出たらアンチョビをつぶしながら加え、ホールトマト缶を入れてつぶしながら中火で加熱します。 トマトがつぶれたら水を入れて沸かします(※煮詰めなくてOK)。コンソメ・ブラックペッパー・ローリエを入れ味見をし、必要であれば塩で味を整えます。
- ⑦ ④を入れて、弱火でふたをせずに25~30分煮ます。
- ⑧ 中に火が通り、キャベツがしんなりしたら火から下ろし、器に盛り付けてできあがりです。

### ★松矢シェフからのアドバイス

火を止めてから2時間程度おいておくと、味が馴染んでより美味しくなります。

## 編集 後記

謹賀新年。JR東日本総武線で通勤していますと、千葉県にある幕張車両センターに、オレンジ色の帯を巻いた2階建ての車両がいくつも停まっているのが見えます。これこそ何を隠そう、近年新たに導入された中央線快速のグリーン車です。車窓から見てみると、豊田(東京都日野市)から迎えに来たE233系の10両編成に組み込まれて、少しずつ中央線に旅立っていくのがわかります。育成豚が分場に預けられていて、機が熟して本場に出荷されていくようです。各ピラミッドの種豚のように今後の活躍を期待したいと思います(宅乱家半角齋)。



## 日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは  
日本SPF豚協会の  
登録商標です

## 日本SPF豚協会だより

第98号 2025年1月1日発行(季刊)  
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376  
e-mail:j.spf.a@nifty.com  
http://www.j-spf.com/  
発行人 鷺谷 敏一  
編集人 小林 一彦